

学びたい、伝えたい故郷

美郷町都賀公民館

1 都賀公民館の概要

都賀地域は、旧大和村時代の中心地域であり、現在も役場や農協の支所、医療機関、小中学校（各1校）がある。人口約900人、約420世帯で高齢化率は45.4%である。

公民館のエリアは大きく4つの地域から成り立っており、それぞれに「連合自治会」が組織されている。公民館はこの連合自治会間の連絡・調整役として自治会の活動にも関わっている。また、婦人会も地域に根付いた活動が継続されており、公民館活動の力強いパートナーとなっている。

2 事業の概要

(1) 事業のねらい

●昔から伝わる食文化や遊びには知恵や工夫が詰まっている。地域の大人から子どもへそれらを伝えることで地域を愛し、誇りに思う心情を養う。

●世代間交流により、礼儀作法を意識したよりよいコミュニケーション力を育てる。

(2) 具体的な取組

① 「作って遊ぼう 昔の遊び」

公民館活動推進委員会で「子どもたちに伝えたい昔の遊び」について話し合い、子どもたちと一緒に竹トンボ、竹カップ、水鉄砲の3種類の遊具を作ることにした。指導者は連合自治会、婦人会、他の2館の公民館の協力を得て16人が集まった。小学校にも全面的に協力いただけることになり、全校児童・保護者と指導者、合わせて約160人での活動となった。小刀やのこぎりを初めて使う子どもたちもいたが、参加者を「お客様」にしないよう、指導者は見守る立場を徹底した。親たちもすでにこうした遊びを知らない世代である。子ども以上に熱心に取り組む親の姿もまた子どもたちには新鮮であったと思う。



② 「大豆を栽培して、味噌、豆腐を作ろう」

日本の食生活に欠かせない「大豆」に着目し、栽培するところから豆腐、味噌への食品加工までを、大和小学校3年生9名が8ヶ月かけて取り組んだ。それぞれの活動の場面で地域の達人が関わり、先生となった。千羽（せんば）や唐箕（とうみ）など、今では見ることも難しい昔の農具で脱穀を体験することもできた。最後の活動としての「味噌づくり」は、まだ完結していない。今年の秋には子どもたちと地域の方々とで味わい、新たな活動への誘い水にしたい。



3 事業の成果と課題

大人と一緒に作業をすることで、ものづくりの大変さ、重要さ、ありがたさを子どもたちは感じる事ができ、地域の大人への尊敬の念が生まれた。地域の大人の側も得るものは大きい。子どもたちからもらうエネルギーは絶大で、穏やかだが単調な日々の暮らしに刺激が生まれた。子どもも大人も、互いの存在や能力が求められることにやりがいを感じる事ができたと思う。今後は地域のリーダーや地域の宝をどう発掘していくか、単発にならず継続していくための工夫が必要である。

4 今後の取組等

住民の高齢化が進む中で、集落の存続をかけて新たな地域づくりが始まろうとしている。公民館の「ひと・もの・こと」を繋いでいく取り組みは、ますます重要になってくる。これからも地域の声を聞きながら一緒に歩いていきたいと思う。（都賀公民館 松村みはる）